



子どもの6分の1 6人に1人が貧困状態に陥っているといわれる現在の日本。この連載では、その6分の1の子どもたちの現状と、この地域で「子ども貧困」の解決に取り組む団体の活動をご紹介します。

6分の1どころじゃない貧困の子どもたち ~ 前編 ~

貧困家庭の生活は表に出ない

「子どもの貧困」と言いますが、貧困の子どもの本当の姿を知っていますか？

サイズが合わない汚れた服を着て、いつもおなかをすかせているイメージですか？もし、そんな想像をしたのなら間違っています。

今どきの貧困家庭の子どもたちはファストファッションに身を包み、スマホやポータブルゲームを持っていたりします。一見どこにでもいる普通の中学生です。このような面だけを見て「どこが貧困なの？」と言う人がいますが、私は家庭教師の学習支援を行っており、貧困の子どもを取り巻く生活環境がリアルに見えるので、その理由もわかるようになりました。

今では部活やクラスの連絡もSNSで行いますし、安くて清潔でおしゃれな服を着こなし、一緒に遊ぶためのツールを持っていなければ仲間外れにされ、いじめの対象になってしまうことがあります。「清潔な服」「SNS」「ゲーム」の3つは子どもが友達の輪に入れてもらえる最低限の必須アイテムのようです。貧困家庭が生活費を削ってでも子どもにこれらのアイテムを持たせるのは「親の貧困を理由に子どもがいじめられることだけは避けたい」という思いからです。また母子家庭では、別れた父親が養育費以外に小遣いを渡したり、連絡用にスマホを持たせ、使用料を父親が払っているケースも多くみられます。

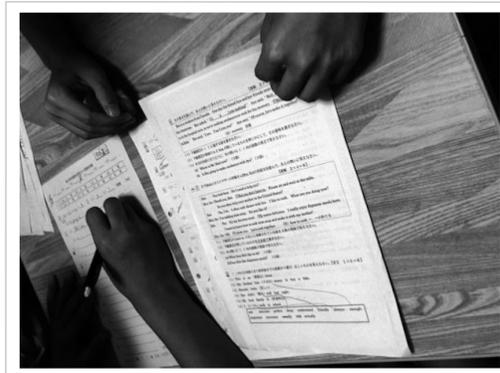


こうした理由から、子どもたちは一見「貧困」ではなく普通に暮らしているように見えてしまいます。

では、家の中や暮らし向きはどうでしょう？

貧困家庭の多くは間取りが狭く、子ども部屋はありません。家具は少なくガランとして、勉強机がないため食卓で勉強している子もいます。食器や調理器具は少なく、レトルト食品やカップ麺、袋菓子が棚に並んでいることが多いです。保護者は病気で働けなかったり、働けても所得が十分ではないケースが目立ちます。贅沢をしなければ食事は食べていけますが、フルーツやケーキは買えないし外食はできません。旅行に行けないので、友達からお土産をもらってくると、「お返しすらできない。子どもには我慢させているな」とつらい気持ちになるそうです。

こんな話を聞くと「子どもにスマホやゲームを持たせるくらいならもっと別の使い方があるだろう」とお怒りの方もみえるでしょう。しかし、保護者は子どものことを思い、最優先しているだけなのです。私が出会った生活困窮家庭は貧困パッシング報道に見られるような派手な生活をしている人は一人もいません。みなさん本当につましく生活をされています。表に出る服装や持ち物には人一倍気を使っているため、一見普通の家庭のように見えますが、家の中をのぞいてみると決して裕福ではない現実が見えてきます。



『特定非営利活動法人 ボランティアチャー』 事務局・後田成美

学びたい子どもたち

貧困家庭では、子どもを学習塾に通わせることができるでしょうか？一般的な学習塾の月謝は約2万円。愛知県の中学3年生の通塾率は60%、低所得家庭の約40%程度は塾に通っていないと想像できます。計算してみると、生活保護家庭の受給額は、低所得家庭の下位から30%くらいの金額にあたり、学習塾代は受給費の10%程度に相当します。貧困家庭にとって、学習塾の月謝を払うことは非常に困難なことです。

私が出会った貧困家庭のお子さんは学びたがっていました。「塾代は出せない」「高校は公立」「私立は滑り止めも受けない。だって受かったって行かせられないから」と親に言われ、「塾に行きたい」という言葉をずっと我慢してきているのです。勉強でつまずいても教えてくれる人は近くにいませんし、進路について相談できる相手もいません。こんな小さなことが積み重なって、自分の将来に閉塞感を抱き、どんどん成績は下降します。結果、高校進学もあきらめます。学校に行くことにも価値を見出

せず不登校になったり、非行に走るケースもあります。中卒の就職は困難で、フリーター&低賃金となり、貧困の連鎖の中にどっぷりつかってしまいます。

しかし、ここに家庭教師の先生が来てくれるとなると180度話が変わります。たいていの子どもは「本当に僕は勉強していいの？」と聞いてきます。「高校に行きたい？」と聞くと「うん、行きたいよ。でも、勉強はできないし、成績もよくない。学校で相談したら、私立高校か専門学校か通信制高校しかないって言われたんだ。お母さんは、お金がないから公立高校しかダメって言うから、僕はもう高校に行けないと思っていた」と言うのです。

「あきらめなければ行ける公立高校はあるよ。一緒に頑張ろうか？」そう伝えて目標を設定してあげると驚くくらい勉強します。自発的に勉強するようになり、質問もたくさんしてきます。全身から学びたい気持ちがあふれてくるのです。

子どもたちの学びたい気持ちを支えるボランティアチャーの活動内容については、後編でお伝えします。

INFORMATION

特定非営利活動法人 ボランティアチャー

TEL: 052-508-8488(10:00 ~ 22:00)

E-mail: volun-teacher@orchid.plala.or.jp

ホームページ: <http://volunteacher.greenwebs.net/>

開講中の教室

・対象: 中学生

・受講料: 生活保護家庭は無料。一般家庭は月会費5,000円。
収入に応じて減額制度あり

・場所: 一宮学習支援教室...i-ビル、
春日井学習支援教室...ルネック

家庭教師

・エリア: 愛知県

・対象: 小学生・中学生

・受講料: 生活保護家庭以下は会費無料 ~ 750円 / 60分。一般家庭は会費750円 / 60分。(交通費別途)

